

別添

令和5年度

都市景観大賞

受賞概要

都市空間部門

景観まちづくり活動・教育部門



「都市景観の日」実行委員会

都市空間部門 受賞地区一覧

大賞 国土交通大臣賞

地区名	地区面積	応募者
<small>やしま</small> 高松市屋島地区 (香川県高松市)	約60ha	<ul style="list-style-type: none"> ・高松市 ・公益財団法人四国民家博物館 ・れいがん茶屋 ・屋島山上観光協会 ・魅力ある屋島再生協議会

特別賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞*

地区名	地区面積	応募者
<small>こうどうかん</small> 弘道館・水戸城跡周辺地区 (茨城県水戸市)	約51ha	<ul style="list-style-type: none"> ・水戸市 ・水戸市教育委員会
<small>せんのみや</small> 阪急神戸三宮駅周辺地区 (兵庫県神戸市)	約1.2ha	<ul style="list-style-type: none"> ・阪急電鉄株式会社 ・神戸市 ・株式会社久米設計 ・株式会社大林組 ・株式会社丹青社 ・有限会社スタイルマテック ・ALTEMY ・有限会社小野寺康都市設計事務所 ・ナグモデザイン事務所 ・株式会社KAP ・パシフィックコンサルタンツ株式会社

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

地区名	地区面積	応募者
<small>ながれやま</small> 流山おおたかの森駅前地区 (千葉県流山市)	約8.3ha	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社マウントフジ アーキテクツスタジオ一級建築士事務所 ・流山市 ・東神開発株式会社 ・株式会社楠山設計 ・株式会社プランツスケープ
金沢駅西広場(歩行環境整備事業)地区 (石川県金沢市)	約1.1ha	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市 ・金沢駅西広場周辺活性化協議会 ・株式会社国土開発センター ・株式会社金沢計画研究所

*同賞の地区が複数ある場合には、総務省全国地方公共団体コード順に掲載しています。
 ※今年度の特別賞の扱いについては、陣内審査委員長の総評(P.3)をお読みください。

総評

審査委員長 陣内 秀信

今年度は応募が8つにとどまり、数の上では寂しかったが、内容的にはその半数を超える5つが突出した素晴らしい成果を示すものであり、審査にも大いに熱が入った。

特徴の一つは、城址の歴史的風致地区、海を望む国指定の史跡で景勝地という特別な価値をもつ2地区の応募があり、景観まちづくり／地域づくりの新領域が示された点にある。二つ目は、今年度も応募の集中が見られた駅周辺の再開発関連の地区のなかに、例年のレベルを大きく突き破る意欲的な事業が複数見られた点である。

一次審査で選ばれた5地区に関する現地審査の報告を元に、二次審査が行われ、いずれも優れた内容であることが確認され、その全てが受賞の対象となった。

そのなかでまず、大賞候補として、「弘道館・水戸城跡周辺地区」、「阪急神戸三宮駅周辺地区」、「高松市屋島地区」の3つが挙げられ、慎重な議論がなされた。その結果、大きな共感を得て大賞に選ばれたのは、かつての名声を失いつつあった著名な観光地を見事に甦らせた「高松市屋島地区」である。山麓から山上までの道筋は既存施設も活かしつつ景観デザインの力で快適なアプローチに再生され、山上に創られた曲線を描いて大地に並走する美しい現代建築・交流拠点施設からは圧巻の眺望体験が得られる。この由緒ある名所に潜在する可能性を引き出し、官民一体となって自然と歴史が対話するスケールの大きな景観形成を成し遂げた粘り強い努力とその手腕に審査員一同、深い感銘を受けた。

次に高い評価を獲得したのが「阪急神戸三宮駅周辺地区」である。阪急神戸三宮駅周辺の既存の空間的コンテキストの上に、意欲的なデザインで市民に親しまれる駅前広場を創出し、そこに震災前のビルの外観を駅ビル低層部に再生して象徴を甦えらせ、さらに背後に続く高架下店舗とその通りを美しい賑わい空間に転換して回遊性を生み出した一連の事業は、まさに歴史を刻んだ都市空間再生の取り組みの一つの金字塔と言える。大賞にも匹敵する価値を持つこの地区には、準グランプリともいふべき特別賞が授与された。

もう一つ、「弘道館・水戸城跡周辺地区」にも、我が国における都市の歴史を活かした景観再生の卓抜した成果として特別賞が与えられた。失われた歴史的建造物の本格的な復元をベースに、歴史的な景観を大きなスケールで甦らせた稀有な試みで、特に、徳川御三家の城下町、水戸の象徴空間だけに日本の歴史にとっても意味がある。地域での募金運動に始まり、市民と行政の協働で実現した復元・景観整備の成果という点も大きな共感を呼んだ。

優秀賞には、駅周辺の再開発に関する2つの地区が選ばれた。「流山おおたかの森駅前地区」は、官民連携で段階的に積み上げたまちづくりの偉大な成果で、駅前広場と商業施設が一体となって市民に愛される commons の空間を見事に生み出した。「金沢駅西広場（歩行環境整備事業）地区」は、車中心の無味乾燥な駅裏エリアが賑わいのあるヒューマンな空間に生まれ変わった点が高く評価された。

来年度は、より広い分野での多くの応募があることを期待したい。

大賞 国土交通大臣賞

やしま
高松市屋島地区

所在地 香川県高松市

地区面積 約60ha

応募者 高松市、公益財団法人四国家博物館、れいがん茶屋、屋島山上観光協会、魅力ある屋島再生協議会

地区概要

当地区は、瀬戸内海国立公園並びに国の史跡及び天然記念物に指定されており、山上からの多島美景観や、屋島寺や源平合戦の史跡等をはじめとする人文景観も豊富な、本市が誇る観光地である。しかしながら、多くの観光客が訪れていた当地も、1972年の年間入込客数246万人をピークに、旅行動態の変化や施設の老朽化、景観の劣化等から、平成中期には年間50万人前後まで低迷した。

このような中、屋島及び周辺地域の持続的な活性化を目指して、官民が一体となり、2013年1月に「屋島活性化基本構想」を策定し、景観刷新などの活性化への取り組みを開始した。屋島山上と山麓を結ぶ主要ルート、民営の自動車専用有料道路を市道化し「屋島スカイウェイ」として刷新、一般供用を開始したことなどを皮切りに、山上では、「屋島山上交流拠点施設」の整備や「れいがん茶屋」のリニューアルが、山麓では、「四国村ミュージアム」のリニューアルなどが行われ、地区全体に、人の流れと賑わいをもたらす新しい動きが生み出されている。

新たな魅力を発信している当地区には、コロナ禍前をも超える観光客が来訪しており、当地区は、本市の代表的な、また、中心的な、賑わいの拠点となっている。



瀬戸内海国立公園内にある「屋島地区」は、「屋島スカイウェイ」で結ばれた山上区域（写真）と山麓区域から成り、眺望・景観に優れた自然環境と、長い歴史に彩られた人文景観が豊かな、高松市を代表する観光地である。



屋島正面の山麓に広がる、民間屋外博物館「四国村ミュージアム」は、「屋島スカイウェイ」との空間的な連続性を意識したリニューアルを行い、エントランス棟「おやねさん」が来訪者を迎え入れている。

審査講評

自然がつくりあげた場所の力を人が見出し、愛情を注いで造形し、さらにそこを数多の老若男女が愛で、記憶することで、名所は生まれる。屋島は瀬戸内の、高松の名所である。数百年に渡り多様な眼差しが注がれ続けた屋島は、平和な近代社会において観光地となり活況を呈し、そして衰退する。雄大な自然の魅力と楽しかった記憶を蘇生させるための取り組みが、立場を超えたデザインの力によって成し遂げられた。廃屋の撤去、国際レベルのデザインによる展望施設、呼応するリノベーション、快適なアプローチ、もてなしの企画と設え。これらが自発的、呼応的に展開したことで、屋島は新たな名所にふさわしい景観を造形し、瀬戸内の風景を愛でる人々の喝采を浴びる場所となった。文化財保護法、自然公園法、景観法といった制度による位置付けのもと、時間軸のなかで個々に開発されてきたドライブウェイ、園路、建築物などの一つ一つの要素を丁寧に、主体的に、真剣勝負で再生する取り組みを、名所屋島への敬意と愛情のもので連鎖させていく。本事例は、まさに持続性のある景観形成の先駆的モデルであり、多くの学びを得た。（佐々木）



廃屋を撤去し整備した「屋島山上交流拠点施設」（愛称「やしまーる」）では、屋島から眺める美しい夕景・夜景の中でのイベントも開催され、屋島山上に多くの人が訪れ、周遊する、活気ある屋島の姿がよみがえった。



山上区域で、瀬戸内海を望む眺望点「獅子の霊巖」に隣接する「れいがん茶屋」（右）は、「やしまーる」（左）の整備に併せてリニューアルし、空間に一体感をもたらし、山上の賑わいとやすらぎを示す空間となっている。

特別賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

こうどうかん

弘道館・水戸城跡周辺地区

所在地 茨城県水戸市
 地区面積 約51ha
 応募者 水戸市、水戸市教育委員会

地区概要

当地区は、JR水戸駅北口に直結する位置にある。江戸時代は御三家水戸藩35万石の居城である水戸城が広がり、その一角には日本最大級の藩校である弘道館が存在していた。しかし、戦災等により歴史的建造物の大半が解体・焼失し、歴史的景観が失われてしまっていた。

こうした中、市は住民・事業者・行政による協働のもと、弘道館・水戸城跡周辺地区の景観形成や歴史まちづくり関連の事業を進め、歴史的景観の再生に取り組んできた。

水戸城ゆかりの文化財をはじめとする歴史的資源が豊富な当地区は、「弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想」に基づく道路整備事業及び既設電線類の地中化整備事業や、地域による自主的な募金運動により機運が高まり実現した水戸城大手門・二の丸角櫓・土堀復元整備事業、さらに景観の保全と向上に資するための都市景観重点地区及び屋外広告物特別規制地区の指定を行い、歴史性を意識した景観づくりに配慮し、将来にわたって保全するとともに地区の魅力をもっと高めているところである。

往時の姿で復元された水戸城大手門、二の丸角櫓及び土堀が当地区の歴史的景観の核となり、重層的な歴史景観の再生とともに、地区内の他の歴史的資源へ誘導する新たな観光ルートの創出と市民のまちへの誇りの醸成にも寄与している。

審査講評

当地区は水戸藩35万石の居城「水戸城」の敷地にあたるが、当時の建造物はほぼ滅失し、歴史的な雰囲気は感じられなくなっていた。2009年、開藩400年の時に大手門の一部と伝わる扉が見つかり、市民が復元の会を結成して寄付を募り、そこから本格的な取り組みが始まった。2014年には「弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり基本構想」を策定、この計画に沿って弘道館に相対する大手門、駅から見える二の丸角櫓、その周辺の土堀などを当時の姿に復元するとともに、城内の道路の一部を廃道して通過交通を排除、歩行空間の充実と電線類の地中化、周辺地区に対する規制強化などが実施された。また、「水戸学の道」と命名された回遊ルートのご案内板や一般市民も自由に入れる学校施設としての歴史展示館も設置されている。

市民の協力の下、面的な全体計画を立案、「象徴となる歴史的資源」を忠実に復元するとともに着実に周辺整備を行って城址の雰囲気を地区として醸成しており、「歴史まちづくり」の優れた事例であるといえる。今後、水戸駅や中心市街地との連携をさらに深めるとともに様々な市民活動がより一層活発に展開されることを期待し、特別賞を授与するものである。（岸井）



水戸城大手門背面（写真下）から弘道館・旧茨城県庁三の丸庁舎方面（写真中央～上）を望む。



2020年2月に復元整備事業が完了した水戸城大手門。水戸東照宮の創建400年を記念した御祭禮行列が本地区内を練り歩いた。



2021年6月に復元整備事業が完了した水戸城二の丸角櫓。



市立第二中学校前から杉山門方面に向かって見ます。学校施設の外構を白壁塀として整備を行った。

特別賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

さんのみや

阪急神戸三宮駅周辺地区

所在地 兵庫県神戸市

地区面積 約1.2ha

応募者 阪急電鉄株式会社、神戸市、株式会社久米設計、株式会社大林組、株式会社丹青社、有限会社スタイルマテック、ALTEMY、有限会社小野寺康都市設計事務所、ナグモデザイン事務所、株式会社KAP、パンフィックコンサルタンツ株式会社

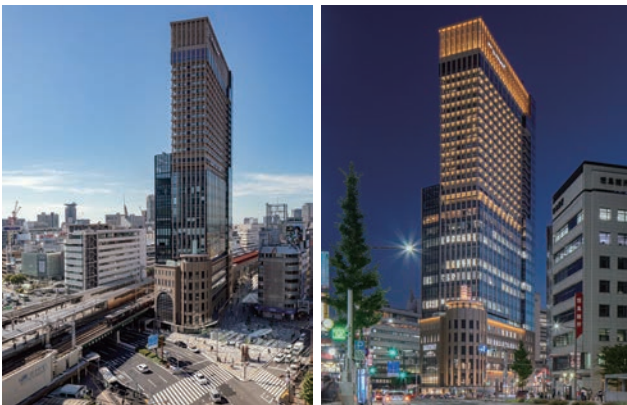
地区概要

阪急神戸三宮駅北側は神戸を代表する繁華街の一つで多くの人で賑わうエリアだが、駅前には長らく手が加えられず古い様相を呈していた。神戸市は人が主役の歩きたくなる街づくりをコンセプトとする三宮周辺地区の「再整備基本構想」を策定。その先陣として阪急電鉄が神戸三宮阪急ビルの建替と高架下店舗の再整備に着手し、景観の要であった旧駅ビル外観を再生した基壇部と、発展を象徴する高層部の新旧が上手く調和した街のランドマークを創出した。神戸市も隣接する公共空間「サンキタ広場・サンキタ通り」の再整備を決め、官民一体によるプロジェクトとして進めることとした。「えきまち空間」の象徴となる広場や、広場や民有地と段差なく統一の石畳舗装でプロムナード化した空間は、設えや通行規制により歩行者の利活用を促進し、路上イベントや店のテラス営業など地域主体の賑わい創出を支援した。テラス営業では官民で構成した組織がコロナ占用特例で道路占用を実現し、ほこみち制度への移行で継続に繋げ管理・利活用のあり方を具体化した。サンキタ通りに繋がる駅高架下の貫通通路や南側JR高架に挟まれた民有地も、店舗が賑わう新たな街路に再整備し、地域の面的な回遊性を高めた。

審査講評

当地区は、阪神・淡路大震災で多大なダメージを受けた神戸市における、本格的な再生プロジェクトの先陣を切るものである。神戸市は、かつて横浜市などと並び都市デザイン先進地区の代表格であった。しかし、震災復興に伴う財政再建などからその歩みは止まっていた。本計画は、漸く新たな一步を踏み出したことを実感させる素晴らしいものである。何よりも、自治体、鉄道事業者、民間事業者が一体となって、大変質の高い空間をトータルにプロデュースしたことを高く評価したい。また、本プロジェクトの特徴として、比較的狭い範囲に留まる対象地区の非常に高いレベルの整備と、昭和の感覚がにじむ隣接する街区との対比がある。現状においては、この対比感が都市の魅力に深みを与えているとも言え、今後の展開が興味深い。全てを新しくするのではなく、混在もまた一つの個性として考える必要があるのかも知れない。なお、本地区は審査会において都市景観大賞国土交通大臣賞にも準ずる高い評価を受け、特別賞という評価となったことを付け加えておきたい。

(田中)



当地区は阪急神戸三宮駅と北側サンキタ広場及び南北の周辺街路を含む再整備事業。



「えきまち空間」の象徴となるサンキタ広場。駅敷地、広場、街路は石畳舗装を段差なく連続させて一体的に整備。



サンキタ通り(市道)は日中の荷捌き等貨物車両以外の通行をすべて排除。高架下店舗に設定したオープンテラスエリアにより街に賑わいが滲み出す。



南側街路(駅敷地)(写真左側)は減築してオープンテラスエリアを確保。ネオン風LED照明により界隈性を活かした路地裏街路を演出。

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

ながれやま

流山おおたかの森駅前地区

所在地 千葉県流山市

地区面積 約8.3ha

応募者 株式会社マウントフジアーキテクトスタジオ一級建築士事務所、流山市、東神開発株式会社、株式会社楠山設計、株式会社プランツスケープ

地区概要

流山おおたかの森は、2005年のつくばエクスプレス開業をきっかけに急速に発展した若い街である。当地区において、流山市と東神開発は、2007年の「流山おおたかの森S・C」開業以降、多くの官民連携のまちづくりを実践している。

その特徴は、まちに点を打つように各事業を計画し、それらがまるで“しりとり”のように次事業へ影響しながら展開する、空間的にも時間的にもオープンエンドなまちづくりにある。

「木質・木調の外観デザイン」や「回遊性のある動線計画」、「地域性のある植栽計画」といった緩やかなコードが“しりとり”されることで各施設が自律しながらも共存可能な都市景観を形成している。(SC・ANNEX1/2・こかげテラスのファサードデザイン、高架下連絡通路・各施設を繋ぐデッキ・GREEN PATHによる回遊性の向上など)

駅南口の最後の一区画であるFLAPS及び広場改修においても、上記のコードを引き受け、「木質の外部階段・デッキによる都市空間の回遊性向上」、「潜在植生による各階テラス・屋上の植栽計画」を施し、「山/谷」による新たな都市地形が実現した。

現在、ウォークアブル道路も計画が進んでおり、点在する施設群を回遊する動線の誕生で、さらなる賑わいが生まれることを目指している。

審査講評

「都心から一番近い森のまち」を掲げる流山市は、近年子育て世代の転入者の増加が著しい。都心まで30分足らずの利便性に加え、市の支援制度なども追い風になっているようだ。当地区は森の再生と緑のまちづくりを目指す行政と暮らしやすさと街の賑わいを標榜する民間が関係し、最初のショッピングセンターを誕生させ駅周辺整備の礎を築いた。それをきっかけに15年以上にわたり地道で丁寧な開発が継続されてきた。興味深い点はしりとりのように計画が関係し、点描画のように点が線となり面となって街並みが形成されてきたことである。駅舎内を貫通してできた南北自由通路、商業施設と駅舎をつなぐデッキは回遊性を向上させ、外装のデザインボキャブラリーの共通化、高架下のグリーンパスや、進行中の森のプロムナード計画は地域の一体感や関係を高めている。これは行政、事業者、地権者、設計者が共に手を携え、風通しの良い対話を続けてきたことの成果である。最後のピースと位置づけられた商業複合施設FLAPSと広場リノベーションの優れたデザイン性は駅前広場に山と谷の新たな都市地形を生み出し、駅前のアクティビティの向上に大きく貢献している。(富田)



芝生広場から「FLAPS」をみる。北側の広場にも日差しを届けるセットバックした「山」型の建築形状により、明るいひだまりの広場が実現された。



「谷」型の底となる「森のまち広場」をみる。ビッグファニチャーは様々な高さを用意することで、人それぞれに自発的な様々な使い方を促す。



高架下の「GREEN PATH」を見下ろす。賑わいと緑が連続し、離散的な施設群をつなぐネットワークを形成している。



西側上空より地区全体をみる。それぞれの建物は“しりとり”のように関連し合い、回遊性の高い都市空間を形成している。

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

金沢駅西広場（歩行環境整備事業）地区

所在地 石川県金沢市

地区面積 約1.1ha

応募者 金沢市、金沢駅西広場周辺活性化協議会、株式会社国土開発センター、株式会社金沢計画研究所

地区概要

当地区は連綿と整備されてきた金沢駅西広場の歩行環境整備事業であり、歩行者中心の空間を再整備して駅周辺の都市景観と空間に新たな魅力付けを行った。

道路と駐車場が広がっていた駅西広場北側に位置する幅10m総延長200mのT字形線状敷地に、再整備事業の考え方を基本としながら広場と歩行空間を計画した。敷地に隣接する金沢市が公募した商業施設・ホテル、閉鎖的な外装を開放的なガラスに全面改修した駅高架下商業施設の二つの周辺施設と連携を図り、全体で一体のプロムナード歩行広場を創出した。

「雨雪の多い金沢を訪れた人を出迎えるおもてなし」の歩行空間となるシェルターとキャノピーは、地元産スギ材やアルミなど地元石川や北陸地域の産業素材を活用することでオリジナリティを高める計画とした。

また、官民共同で公共空間の利活用を認めるエリアマネジメントの仕組みづくりが進められており、金沢駅西広場周辺の魅力発信や賑わい創出が金沢駅西地域の賑わいのあるまちづくり及び地域内事業者の経済活動活性化に寄与することを目的とした協議会が事業者によって設立された。

審査講評

金沢駅西広場は、第1期（1991年）、第2期（2014年）、第3期（2020年）と30年をかけて、現在の空間を作り出してきた。特に第3期では、裏道的であった北側道路を歩行者専用道路に変更し、緩やかにカーブする歩道と個性的なキャノピーとシェルターのデザイン、および駐車場の車が気にならないような緑化の工夫などによって、ヒューマンで魅力的な歩行空間が誕生した。

歩道空間に面するJRターミナルビルの1階の外壁もこの機会に透過性の高いデザインに改修され、建物内外の魅力を創出している。また、ホテル棟の新築に際しても低層部の賑わい形成と高層部の落ち着いた外壁デザインは、金沢駅西広場全体の景観形成に大きく貢献している。

このように第3期整備では道路空間と沿道の建物空間の一体的な景観形成の魅力づくりに加えて、エリアマネジメントの仕組みも整備され、今後ますます金沢駅西広場での市民活用やイベントによる賑わい形成が期待される。以上のことから、優秀賞にふさわしいと評価する。（卯月）



隣接施設と連携を図り一体の歩行者空間を創出し新たな都市景観を形成。



広場・歩行空間・各施設出入口が交差し広場の中心となる円形の大屋根下空間。長さ5.2mの扇形アルミキャストパネルを48枚連ねた。



流線形の広場に呼応する歩行空間。駅高架下商業施設（右奥）は無窓壁面をガラス壁にし、金沢らしい意匠を凝らした庇に全面改装した。



駅高架下商業施設側歩行空間で企画したキッチンカー。

景観まちづくり活動・教育部門 受賞活動一覧

大賞 国土交通大臣賞

活動名	活動エリア	応募者
長崎の歴史文化を生かした夜景まちづくり	長崎県 長崎市	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎市 ・長崎商工会議所青年部 ・長崎夜景プロモーション実行委員会 ・平和の灯実行委員会 ・長崎ランタンフェスティバル実行委員会 ・長崎夜市実行委員会

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

活動名	活動エリア	応募者
景観絵本「八王子まちなか 景観みらいものがたり」 ～八王子中心市街地のフロートビジョンと 実現に向けたアクション～	東京都 八王子市	<ul style="list-style-type: none"> ・八王子市 ・八王子駅周辺の未来の景観を考える ワークショップ・景観デザイン会議
町家を彩る ^{がんぎ} ～雁木のまちの未来を拓く～	新潟県 上越市	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市立大町小学校（5年生） ・一般社団法人雁木のまち再生 ・大町5丁目町内会
大垣市景観遺産・景観自慢	岐阜県 大垣市	<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市役所都市計画課

* 同賞の活動が複数ある場合には、総務省全国地方公共団体コード順に掲載しています。

総評

審査委員長 小澤 紀美子

コロナ感染症が拡大する中での応募数の減少を危惧していたが、応募いただいた活動や教育の内容は、地域の独自性が投影された魅力あふれる取り組みであった。

まず、第一次審査では、書類に記述されている内容で審査を行い、それぞれの専門とする審査委員の分野の視点から活発な議論を展開して進めた。景観まちづくり活動・教育部門としての評価のポイントは、取り組みが①継続的に行われていること、②フィールドとする地域とのかかわりや連携がとれていること、③実施方法や内容の工夫など独自性があること、④活動や教育を行う対象との双方向性や対話性があること、さらに⑤活動成果の地域への顕著な効果の発現やその発現が期待できること、である。

こうしたポイントから現地に赴いて、専門的な視点からも評価を確実に行うこととし、現地視察・調査の対象を絞り込んだ。第二次審査は、現地視察・調査の結果を各担当の審査委員が第二次審査会においてパワーポイントでのプレゼンを行い、今年度は大賞として1件、優秀賞として3件を選定した。

受賞された各取り組みや実践に関しての評価は、各審査講評を参照していただきたい。日本の各地には、風土が時の経過とともに育んだ魅力的で風格に富む地域が多く、各地域の活性化や持続性をめざしての活動が多くある。地域の住民の方々や次世代を担う方々との連携と学び合う関係づくりの中で地域の魅力に磨きをかけ、再発見し、さらに人材育成など着実に進めて活動の効果の発信に向けてのたゆまぬ努力が行われている。次年度も、多彩な活動による全国各地の成果の応募を期待したい。

なお今回、惜しくも受賞を逃した団体の活動にも評価すべき点があった。今までも継続した取り組みにより再応募されて、評価が上がり受賞した活動がある。本部門の評価ポイントとしての5項目の視点に配慮していただき、さらに受賞活動団体の受賞理由を熟慮していただき、今後とも活動を継続されての再度の応募を期待している。次年度も、多彩で魅力的な地域での活動や教育活動による各地の成果の応募を期待している。

大賞 国土交通大臣賞

長崎の歴史文化を生かした夜景まちづくり

活動エリア 長崎県長崎市

応募者 長崎市、長崎商工会議所青年部、長崎夜景プロモーション実行委員会、平和の灯実行委員会、長崎ランタンフェスティバル実行委員会、長崎夜市実行委員会

活動概要

「平和の灯^{ともしび}」(1993年～)、「ランタンフェスティバル」(1994年～)、「長崎夜市」(2007年～)、夜景プロモーション活動(2013年～)等の夜間景観地域活動と「ライトスケープ基本計画」(1993年)から「環長崎港夜間景観向上基本計画」(2017年)へと続く長崎市役所による夜間景観整備が、非核と世界平和への祈り、長崎大水害の鎮魂、夜景観光の振興、シビックプライドの醸成を目的として、約30年に渡ってお互いに連動しながら継続的に実行されてきた。その過程では地域の関係者が信頼関係を持って連携しながら、子ども達を始めとする多くの市民や来訪者が参加し、長崎のまちなかの歴史や文化を共有、顕在化させる夜景づくりの取り組みが積み重ねられてきた。その結果、長崎の夜景は平和のメッセージを広く発信するとともに、夜景観光の定着による地域経済振興のインフラとなり、市民自身が誇れるふるさとの景観となっている。

審査講評

平和を次世代に伝えようとする市民による「平和の灯」運動と経済活性化を目指す民間事業者による「ランタンフェスティバル」の「夜景まちづくり活動」はすでに30年にわたる歴史がある。また長崎市は、市民が誇りを持ち観光客が堪能できるような美しく親しみやすい夜間景観を創出するために「ライトスケープ基本計画」を策定し、平和公園、眼鏡橋、中華街、稲佐山山頂の眺望スポット等において、各地域の地形や歴史にふさわしい個性的な夜景による魅力演出を図っている。さらに、商工会議所等16団体は「長崎夜景プロモーション実行委員会」を組成し、夜景のテーマ曲作成や稲佐山山頂電波塔ライトアップなどを実施し、夜景観光を主目的にした観光客増加による高い地域経済効果に貢献している。

このような夜間景観を中心に据えた公民連携のまちづくりの展開は、日本ではまだ事例が少なく、長崎での取り組みは極めて先駆的かつ独創的であり、景観デザイン技術の進展にも大きく寄与している。以上のことから、大賞にふさわしいと評価する。(卯月)



「平和の灯」の様子。子どもたちの手によってつくられた平和への願いや絵を書き入れた手作りのキャンドル3000～5000個があかりを灯す。



「ランタンフェスティバル」の様子。中国文化を表現した美しいあかりがまちなか全体にともり、毎年市民や観光客を含めた多くの来場者が訪れる。



稲佐山山頂電波塔ライトアップと稲佐山スロープカー。稲佐山から「見下ろす夜景」に加え、まちなかから「見上げる夜景」の魅力を創出。



夜間景観整備によりライトアップをアップグレードした平和祈念像。右手(原爆)と左手(平和)を高機能スポットライトで照らしている。

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

景観絵本「八王子まちなか 景観みらいものがたり」 ～八王子中心市街地のフロートビジョンと実現に向けたアクション～

活動エリア 東京都八王子市 八王子まちなか（中心市街地・景観誘導地区）

応募者 八王子市、八王子駅周辺の未来の景観を考えるワークショップ・景観デザイン会議

活動概要

絹産業を基盤に発展し、“桑都”と称された八王子。中心市街地では、すでに芽生えている「魅力的な場所」や「魅力的な活動」が市民に共有されていないことが、景観づくりにおける課題であった。

景観づくりの目標像とその実現手法の検討にあたって、「八王子駅周辺の未来の景観を考えるワークショップ・景観デザイン会議」を開催し、地域の活動に携わる地元関係者等や大学生、専門家が参加した。まち歩きや学生提案を経て、あえて市の計画等に位置づけられないフロートビジョン（関わりたい人を惹きつけるようなエリアの価値や光景を積極的に示した将来像）という計画メソッドを採用し、誰もが気軽に読めるよう景観絵本「八王子まちなか 景観みらいものがたり」としてまとめた。

景観絵本発行後は、実現に向けた迅速なアクションを起こすため、市内大学と連携した取り組みの実施や、地域社会と対話の場を設け、景観絵本を活かした協働による景観づくりを実践している。

審査講評

この景観絵本を、計画の挿し絵と捉えてしまうとその価値が正しく理解できない。桑都八王子のまちなかには、古い商家や花街の歴史を活かし、新しい住民をも意識した景観まちづくりのさまざまな種が芽吹いている。『景観みらいものがたり』はこうした萌芽をシーンに落とし込んで編集し、まち全体のストーリーとして示したものである。ひとつひとつの取り組みがシーンの中に描かれることで関係者が勇気づけられる。取り組みの目標像が具体的なイメージとして共有され、実現に向けてはすみがつくだろう。統一的な解釈が前提となる文字で表現された計画ではこうはいかないが、絵本であればそれぞれ注目する場所は異なり、可能性が広がっていく。

八王子の取り組みから「景観まちづくりとは、関係者それぞれの未来像を共有し、折り合いをつけ、互いに共鳴し、その場所の歴史文化に根ざしたストーリーと空間を作っていく編集作業である」ということを改めて意識させられた。景観行政の最終目的は「きれいな街並みを作るためのルールを作って運用すること」ではないのだ。

実現できるのかと疑問視されたアイデアもあったが「30年後ですから」と理解を求めたという。だが八王子の『景観みらいものがたり』のほとんどは、30年もかからずに実現するだろう。（福井）



地元関係者等や大学生、景観デザイン会議のメンバーが参加した「八王子駅周辺の未来の景観を考えるワークショップ」。



大学生と「まちの魅力再発見」をテーマにまち歩き。



景観絵本をきっかけに良好な景観づくりを実践。「そめる」プロジェクトでは「はち」をモチーフにしたフラッグを掲出し、まちなかを彩る。



「アシナミドリ」プロジェクトでは、地元造園業者による植栽方法のレクチャーのもと参加型イベントを開催。

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

町家を彩る ～^{がんぎ}雁木のまちの未来を拓く～

活動エリア 新潟県上越市高田地区

応募者 上越市立大町小学校(5年生)、一般社団法人雁木のまち再生、大町5丁目町内会

活動概要

雁木、及びそれがかかった町家は城下町・豪雪地、特有の建造物であり、上越市高田の街並みの特徴である。市街地の空洞化が加速し、空き家が増える一方で、空き家となった町家を従来の住宅としてだけでなく、様々な用途で活用しようとする動きが盛んになっており、シェアハウス、民泊施設、IT企業のオフィスなどとして活用する事例が次々に生まれている。

今回、大町小学校の5年生が空き町家一軒を4ヶ月間にわたってお借りし、それを「きらめき町家」と名付け、定期的に作品を飾ったり、市民に一般開放をしたりすることで、地域に賑わいや活力を生み出そうと試みた。小学校、一般社団法人雁木のまち再生、町内会が力を合わせ、雁木のまちの未来を拓こうと、世代を超えて、景観まちづくりに取り組んでいる。

審査講評

城下町として歴史をもつ高田地区の大町小学校では、雁木の文化を生かし、地域と連携した学習を展開している。現地審査では大町小学校の先生より、実に充実した教育実践をご紹介いただいた。中でも町家の一部を4ヶ月間借用して展開した5年生の活動「きらめき町家」は、学校と地域社会を結ぶ大きな存在であったようである。総合的な学習の時間を中心に、地域の方からたくさんの歴史を学んだり、町家の活用を考えたりする学習の様子に加え、かるたやポスターづくり、絵画の製作、校内での町家スペースづくりなどの記録を拝見することができ、教科学習とのつながりも多く感じた。また、他の学年も雁木の文化を生かした特色ある活動に取り組んでおられるようであった。児童の皆さんにとって、これらの学習が、地域の方々との対話を通じた深い学びになっていることが確認できた。

10年前に受賞をした時の実績を基にしながらも、発展した教育実践が行われていることが評価され、優秀賞となった。(楚良)



街歩きをしながら、高田の街の歴史や町家のつくりについて説明を受けている児童の様子。



町家をオフィスとしているIT企業の社員の方から、町家がオフィスになったわけを聞く児童の様子。



雁木のまち再生の方々から町家を一軒借りられることになったとき、どのように活用したらよいかを仲間と話し合う児童の様子。



教室内に雁木を制作する児童の様子。家ごとに石畳の感じが異なることから、それをリアルに再現しようとしている。

優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

大垣市景観遺産・景観自慢

活動エリア 岐阜県大垣市

応募者 大垣市役所 都市計画課

活動概要

大垣市の近代化を支えた産業・文化等の近代遺産や宿場町の歴史・文化の蓄積を感じさせる建造物など、「ふるさと大垣の残したい景観を有する建造物等」について、大垣市景観遺産として指定し、景観遺産の指定には至らないものの、地域の自慢として景観づくりにつながるものや、保存・活用の機運が高まることにより将来的に景観遺産への移行が期待される建造物や風景などを、大垣市景観自慢として指定している。

制度の開始から10年程で、100件程の景観遺産・景観自慢を指定した。候補の物件は、自薦・他薦による応募により受付しており、指定された景観遺産に触れ合うことで親しみを持ってもらい、応募の増加につなげている。

大垣市景観遺産の特徴として、歴史的に古い物件だけではなく、近現代に造られた物件でも、市のシンボルや、市民の思い出など、大垣市にあることに意味がある物件も指定する。景観遺産は後世に伝承すべき市民共通の財産である。

審査講評

観光地や規模の大きな都市が注目されるなかで、歴史が多様に交差する大垣市では2008年から良好な景観形成に向けて景観計画を策定し、その3ヶ月後には景観条例を策定して「市民参加型景観まちづくり」を推進している。「子育て日本一」をめざす市の基本方針と市民の健康に配慮して街中にトリックアートを配置した仕掛けによるウォークアブルな都市をめざしていることは景観まちづくりに加えてウェルビーイングなまちづくりとして高く評価された。市民参加型の仕組みは、「市民からの自薦・他薦」によって景観遺産・景観自慢を募集し、それを市の景観審議会で遺産認定を行う。「意匠性・郷土性・表象性・規範性・親和性」という明快な基準を設置し、さらに現地視察を踏まえて登録されていくという市民への開かれた対応となっている。現在、約100件の「歴史文化遺産」「近代遺産」「現代遺産」「風景遺産」が登録されており、その遺産の銘板にはQRコードが2つ設置されていて、それらのコードは市のホームページとグーグルマップにリンクされ、このアプリは災害時にも利活用できる。一方、学校教育で実施されている「ふるさと大垣科」、さらには景観市民団体の活動とともに、学校教育に導入されているタブレット活用と相まって未来を担う地域の児童・生徒への世代交代や次世代育成を視野に入れていることが高く評価され、優秀賞となった。(小澤)



景観遺産指定番号第44号「一夜城址公園とその周辺」における景観遺産めぐり(イベント)の様子。



景観遺産めぐり(イベント)の様子。



景観遺産審議会(現地審査)の様子。



景観遺産募集チラシとパンフレット。

令和5年度 都市景観大賞について

令和5年度は、下記の通り「都市空間部門」と「景観まちづくり活動・教育部門」について募集・審査しました。

I 都市空間部門について

1. 表彰目的

都市景観大賞「都市空間部門」は、良好な都市景観を生み出す優れた事例を選定し、その実現に貢献した関係者を顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

2. 表彰内容

- ① 大賞（国土交通大臣賞） 1地区
- ② 優秀賞 数地区

特別賞を適宜選定し、その位置づけは、審査委員会で決定することとします。

3. 対象地区の要件

本賞は、街路・公園・水辺・緑地等のパブリックスペースと建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、それを市民が十分に活用することによって、地域の活性化が図られている地区を対象とします。単独の「公共施設・民間建築物（付属公開空地等を含む場合も同じ）・構造物（付属公開空地等を含む場合も同じ）」は対象になりません。

4. 応募者の資格

良質で優れた都市景観の実現に深く寄与した地方公共団体、まちづくり組織、市民団体、民間企業・コンサルタント、独立行政法人、公社等とします。

※多くの関係者による共同応募が望ましいですが、単独でも応募者になれます。
※応募者に地方公共団体が含まれない場合には、地方公共団体の確認を得たうえで応募してください。

5. 審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、現地視察、ヒアリング）した上で、表彰地区を選定します。

6. 審査委員

[委員長]

陣内 秀信 法政大学特任教授、中央区立郷土天文館館長

[委員]

池邊このみ 千葉大学大学院教授

卯月 盛夫 早稲田大学教授

岸井 隆幸 (公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長、
(一財)計量計画研究所代表理事

佐々木 葉 早稲田大学教授

高見 公雄 法政大学教授

田中 一雄 (株)GKデザイン機構代表取締役

富田 泰行 トミタ・ライティングデザイン・オフィス代表取締役

国土交通省 都市局公園緑地・景観課長

国土交通省 都市局市街地整備課長

国土交通省 住宅局市街地建築課長

(順不同、敬称略、2023年3月時点)

II 景観まちづくり活動・教育部門について

1. 表彰目的

都市景観大賞「景観まちづくり活動・教育部門」は、地域に関わる人々が景観に関心を持ち、自らの問題として捉え、その解決へ向けて活動できるよう意識啓発、知識の普及、景観法や景観に関する制度等（以下「景観制度」という。）を活用した取組等による活動を選定・顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

2. 表彰内容

- ① 大賞（国土交通大臣賞） 1活動
- ② 優秀賞 数活動

特別賞を適宜選定し、その位置づけは、審査委員会で決定することとします。

3. 対象活動の要件

景観まちづくり教育の実施や、街歩きや景観に関するセミナーの開催、景観制度を活用した取組等景観まちづくり活動の実施による良好な景観形成等のための活動を地域に根差して行っており、それらが地域の人々の景観への意識・関心の高揚等につながっている優れた活動を対象とします。

4. 応募者の資格

景観まちづくり活動や景観まちづくり教育による意識啓発、知識の普及、景観制度を活用した取組等を行っている、学校、まちづくり組織、市民団体、地方公共団体等で、かつ、地域に根差した活動を3年以上継続して実施している団体とします。

5. 審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、現地視察、ヒアリング）した上で、表彰活動を選定します。

6. 審査委員

[委員長]

小澤紀美子 東京学芸大学名誉教授

[委員]

卯月 盛夫 早稲田大学教授

楚良 浄 東京都立学校非常勤教諭

福井 恒明 法政大学教授

国土交通省 都市局公園緑地・景観課長

(順不同、敬称略、2023年3月現在)

■主催：「都市景観の日」実行委員会 *下線は協賛団体も兼ねています

(公財)都市づくりパブリックデザインセンター、(公財)都市計画協会、(一社)日本公園緑地協会、(独)都市再生機構、
(一財)民間都市開発推進機構、(公社)日本都市計画学会、(一財)都市みらい推進機構、(公社)街づくり区画整理協会、
(一社)日本屋外広告業団体連合会、全国景観会議、都市景観形成推進協議会、歴史的景観都市協議会、全国街路事業促進協議会

■後援：国土交通省

■協賛団体：

(一財)都市文化振興財団、(一財)計量計画研究所、(公財)区画整理促進機構、(公社)日本交通計画協会、(一社)再開発コーディネーター協会、
(一社)日本造園建設業協会、(一財)公園財団、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(公社)日本下水道協会、
(公財)自転車駐車場整備センター、(公社)立体駐車場工業会、全国土地区画整理事業推進協議会、都市再開発促進協議会

■事務局：(公財)都市づくりパブリックデザインセンター

〒112-0013 東京都文京区音羽2丁目2番2号 アベニュー音羽2階 TEL 03-6912-0799 URL <https://www.udc.or.jp>